

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	福島区
学校名	大開小学校
学校長名	麥田 葉子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大開小学校では、第6学年 49名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

令和7年度の全国学力・学習状況調査における本校の結果は、全国平均と比較すると国語で9.8ポイント、算数で8ポイント、理科で8.1ポイント下回る結果となった。昨年度との比較では、国語で5ポイント、算数で12ポイントの後退となった。無回答率でみると、国語で2.4ポイント、算数で2ポイント増加していた。

昨年度の結果と比べ、国語の内容項目ごとでは、「情報の扱い方」が12.1ポイント、「話す聞く」が6.2ポイント、「読む」が5.4ポイント向上した。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

学習指導要領の内容で、「情報の扱いに関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」では、全国平均を上回る問題もあった。これは、令和2年度から行ってきた国語科の研究で、問い合わせの質を意識した授業展開を考え、「読む力」を高めてきた成果ではないかと思われる。しかし、「書くこと」の内容では、全国平均と比較し、どの問題も10ポイント以上下回っているため、「書くこと」に苦手意識があることがわかる。

[算数]

学習指導要領の「図形」「変化と関係」の領域で全国平均を上回る問題があった。また「図形」に関する問題では、すべて無回答率が0ポイントであった。「図形」に関しては、算数の領域の中でも得意であると考えられる。しかし、「変化と関係」の問題では全国平均を上回るが、無回答率が6ポイントも高いため、学力の偏りが読み取れる。

質問調査より

[国語]

「国語の勉強は得意（本校83%、全国21.3%）」「国語の勉強が好き（本校34%、全国21.3%）」「授業がよくわかる（本校44.7%、全国35.9%）」という項目で、児童は全国平均を大幅に上回る肯定的な自己評価をしている。これは、日々の授業における音読や話し合い活動、読み取りの学習に意欲的に取り組み、成功体験を積むことができているのだと考えられる。しかし、学力調査の全体結果は全国平均を9.8ポイント下回り、特に「書くこと」の領域では全問題で10ポイント以上下回るなど、深刻な課題が浮き彫りになった。これは、児童の「国語が得意」という意識が、主に「話す・聞く・読む」活動に支えられており、自分の考えを根拠に基づいて文章で表現する「書く」力には結びついていない現状を示唆している。授業で「わかった」「わかった気になった」内容を、実際に記述・説明する段階でつまずいている児童が多いと推察される。無回答率の増加も、何を書けばよいかわからない、あるいは書くことに自信が持てない児童の姿を反映していると考えられる。

[算数]

学力調査において、「図形」領域で全国平均を上回る問題があり、無回答率が0%であったことは特筆すべき点である。一方で、「算数の勉強は得意（本校23.4%、全国31.2%）」「算数の勉強が好き（本校27.7%、全国33.7%）」という質問紙調査の結果は、学力調査の全体結果（全国平均を8.0ポイント下回る）と相関しており、算数全体に対する苦手意識がうかがえる。特に、「変化と関係」の領域では、一部で全国平均を上回る問題があるものの、無回答率が6%と高いことが、学力層の二極化を物語っている。問題の意味を理解し、式を立てて考えるような抽象的な思考を要する問題になると、諦めてしまう児童が一定数いることが推測される。得意な「図形」は粘り強く取り組むものの、苦手な領域では思考を止めてしまう傾向が見られる。

今後の取組(アクションプラン)

【国語科】「学力向上支援チーム事業」を活用した「書くこと」の指導改善

国語科の最重要課題である「書くこと」の指導力向上を目指し、「学力向上支援チーム事業」を積極的に活用し、専門的な知見を持つチームの支援を受け、研究の柱に基づく「書くこと」の指導力向上に向けて以下の3点を柱に研究を進める。

- ①「問い合わせ」の質の向上： 内容確認に留まらず、批判的読みを促す発問を工夫し、思考を深める授業を目指す。
- ②学習活動の工夫： 「振り返り」や授業の「しきけ」、「まなボード」や「ICT」を活用した話し合い活動を充実させ、児童の思考を深め広げる。
- ③「読むこと」と「書くこと」の連動： 最終的な「書く」言語活動を常に見据えた授業展開を徹底する。個別最適・協働的な学びを取り入れ、書く力を育成する。

【算数科】基礎・基本の定着と学力差への対応

学力差の広がりと学習内容の系統的な定着という課題に対応するため、以下の改善に取り組む。

- ①基礎・基本の徹底と個に応じた指導： 既習事項の確実な定着を図るための指導を徹底する。また、習熟度別指導や補充学習を充実させ、個々の学習状況に応じた支援を行う。
- ②単元間の系統性を意識した指導： 年間指導計画を見直し、単元間の繋がりを明確にした指導を工夫することで、学習内容の系統的な理解を深める。

【 全体の概要 】

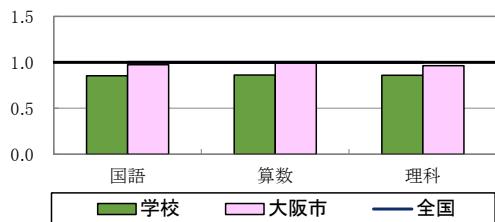
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	57	50	49
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

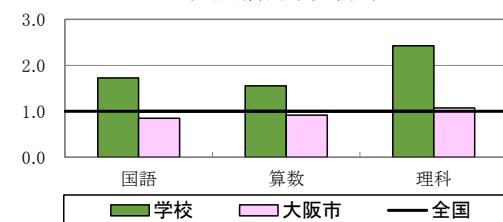
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	5.7	5.6	6.8
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



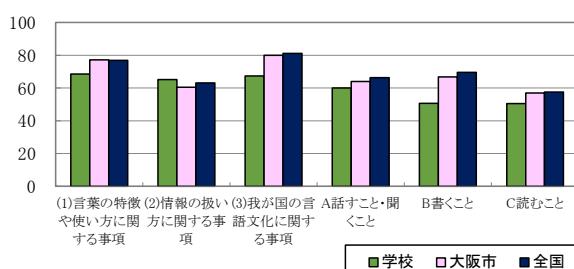
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	68.5	77.1	76.9
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	65.2	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	67.4	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	60.1	64.0	66.3
B 書くこと	3	50.7	66.7	69.5
C 読むこと	4	50.5	56.9	57.5

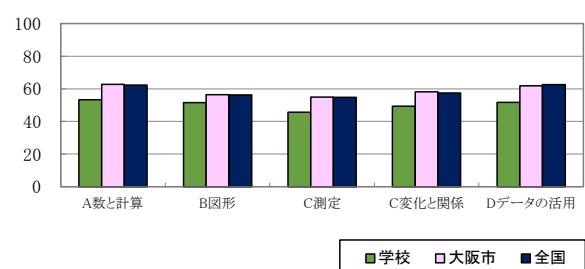
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	53.3	62.7	62.3
B 図形	4	51.6	56.4	56.2
C 測定	2	45.7	54.9	54.8
C 変化と関係	3	49.3	58.2	57.5
D データの活用	5	51.7	61.9	62.6

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



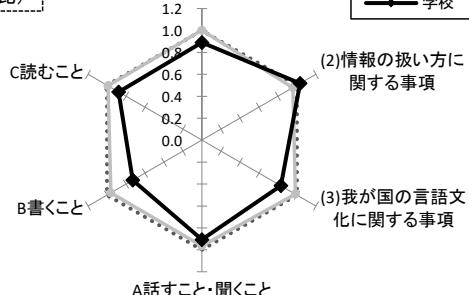
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

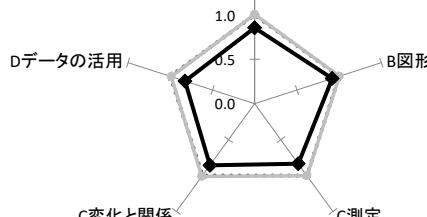
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項
(2)情報の扱い方にに関する事項
(3)我が国の言語文化に関する事項

..... 全国
大阪市
学校



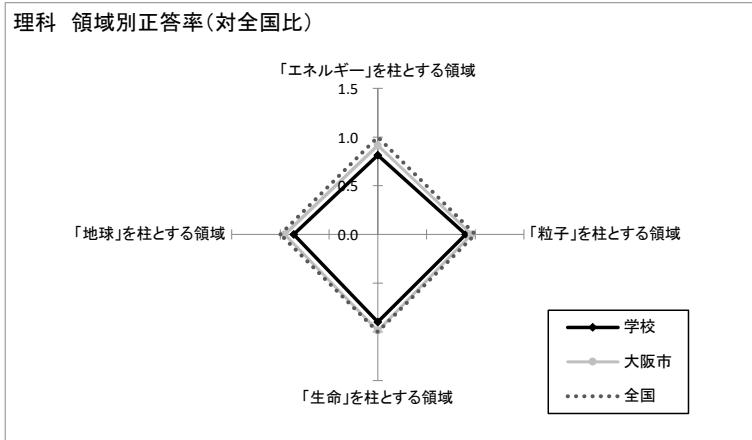
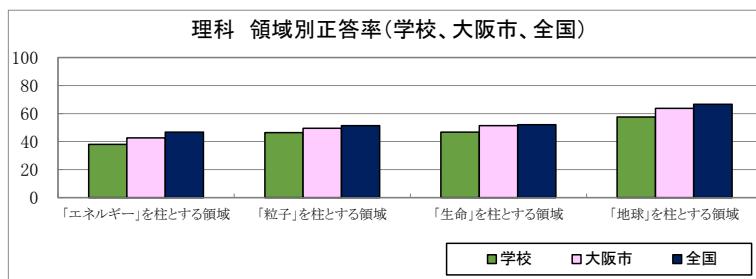
算数
領域別正答率
(対全国比)

..... 全国
大阪市
学校



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	38.0	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	46.4	49.5	51.4
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	46.7	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	57.6	63.8	66.7



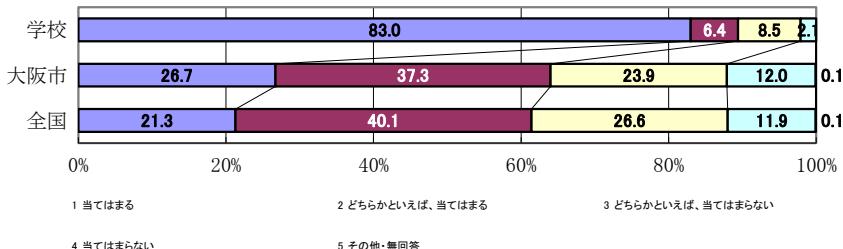
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

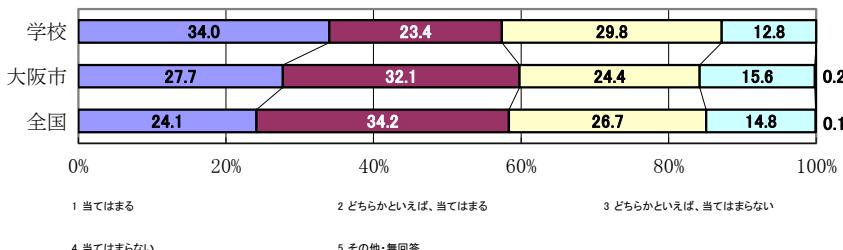
44

国語の勉強は得意ですか



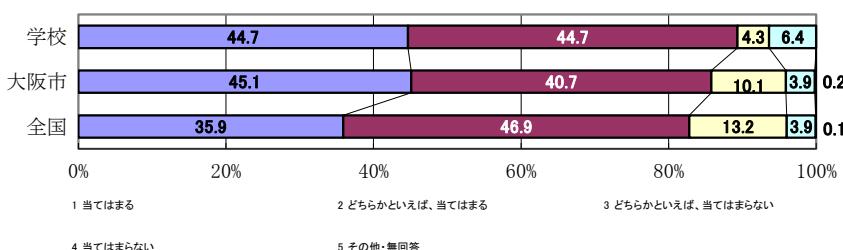
45

国語の勉強は好きですか



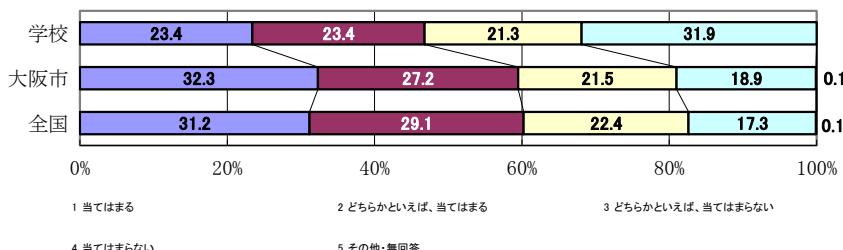
46

国語の授業の内容はよく分かりますか



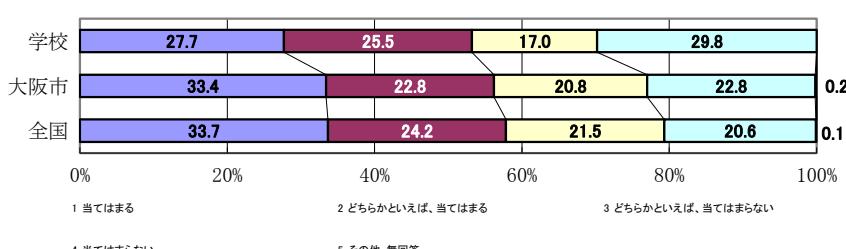
52

算数の勉強は得意ですか



53

算数の勉強は好きですか



学校質問より

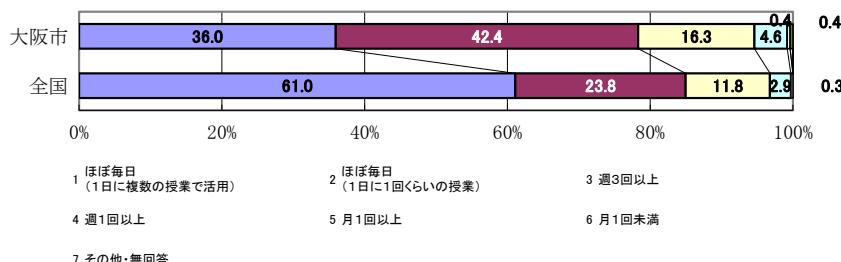
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

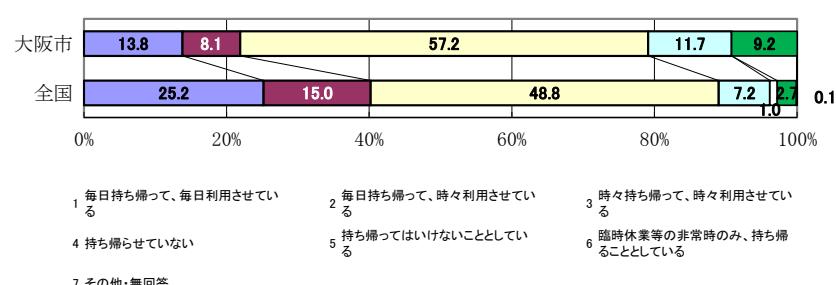
学校 「ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)」を選択



66

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

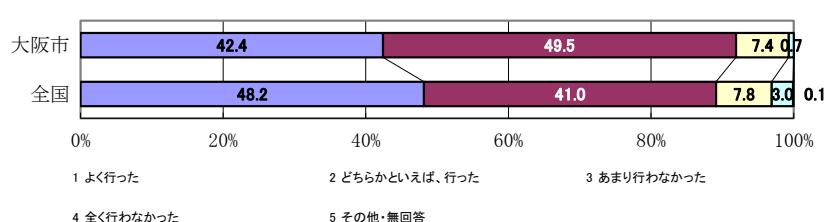
学校 「時々持ち帰って、時々利用させている」を選択



76

地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか

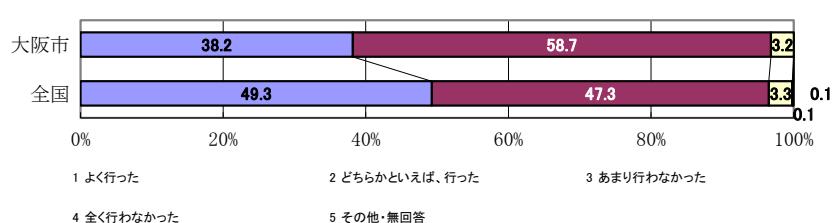
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



80

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか

学校 「よく行った」を選択



84

令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)

学校 「よく行った」を選択

